

GIGAスクール構想

効果的な活用

リスクのグラデーション化

AIドリル

タイムマネジメント

ふくしま GIGAスクール リーフレット

1人1台端末

校内体制の整備

協働的な学び

自分事

生成AI

情報活用能力

個別最適な学び

校務や授業のDX化

令和3年度より3年間で推進してきました、

「ふくしま『未来の教室』授業充実事業」と

「次世代のためのメディアリテラシー育成事業」の

研究校の取組内容や有識者からのポイントを、

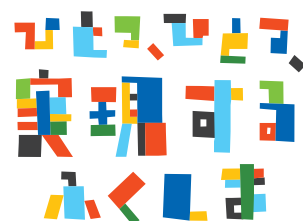
ICT活用面と情報モラル教育指導面の2部構成でまとめました。

学校体制の整備、教育課程への位置付け、授業づくり等にお役立てください。

なお、詳細については、福島県教育庁義務教育課ホームページから

御覧になることができます。

令和6年3月 福島県教育委員会



福島県のICT活用推進に向けて



ふくしま「未来の教室」授業充実事業アドバイザーから



東京工業大学 名誉教授 赤堀 侃司

福島県の実践は極めて優れており、他の都道府県の参考になると思います。その理由の1つ目は、福島県教育委員会が主導し、市町村教育委員会及び学校を巻き込んで、県全体としてのビジョンを展開したことで、GIGAスクール構想を定着させるモデルになっているからです。2つ目は、それぞれの実践が地に足が着いているものであり、特別な方法ではなく、どの学校でも真似ができる、納得できる取組だったからです。これは、ICT活用シートに見られる授業の深さから感じ取れます。願わくは、この実践をなるべく他県の先生方にも知っていただくことです。私のこれからの役割は、その広報の仕事だと思っています。このプロジェクトに関わったことは、私にとって光栄で大変感謝しています。



福島大学 准教授 平中 宏典

ICT活用による授業の充実を図っていくためには「比べて考える」「様々な方法で表現する」「協働して問題に立ち向かう」の3点を意識して、児童生徒が方法やツールを自ら選択し活用できるよう日頃から委ねていくことが重要です。「比べて考える」では他者の考えや表現だけでなく自身の取組とも比べられるよう、学びの成果を積極的に蓄積することが期待されます。「様々な方法で表現する」では、音声や映像などICTならではの手法も積極的に取り入れ、表現の幅を広げることが期待されます。「協働して問題に立ち向かう」では、身の回りにある本物の問題を取り上げ、児童生徒自身が問題解決のために協働的な学びが必要と思えるような場面の設定を意識した単元・授業デザインが期待されます。

学校におけるICTを活用した学習場面

各教科等の指導でICTを活用することは、子供たちの学習への興味・関心を高め、分かりやすい授業や「主体的・対話的で深い学び」の実現や、個に応じた指導の充実に資するものです。

A 一斉学習

挿絵や写真等を拡大・縮小、画面への書き込み等を活用して分かりやすく説明することにより、子供たちの興味・関心を高めることが可能となる。

A-1 教員による教材の提示



画像の拡大提示や書き込み、音声、動画などの活用

B 個別学習

デジタル教材などの活用により、自らの疑問について深く調べることや、自分に合った進度で学習することが容易となる。また、一人一人の学習履歴を把握することにより、個々の理解や関心の程度に応じた学びを構築することが可能となる。

B-1 個に応じる学習



一人一人の習熟の程度等に応じた学習

B-2 調査活動



インターネットを用いた情報収集、写真や動画等による記録

B-3 思考を深める学習



シミュレーションなどのデジタル教材を用いた思考を深める学習

B-4 表現・制作



マルチメディアを用いた資料、作品の制作

B-5 家庭学習



情報端末の持ち帰りによる家庭学習

C 協働学習

タブレットPCや電子黒板等を活用し、教室内の授業や他地域・海外の学校との交流学习において子供同士による意見交換、発表などお互いを高めあう学びを通じて、思考力、判断力、表現力などを育成することが可能となる。

C-1 発表や話し合い



グループや学級全体での発表・話し合い

C-2 協働での意見整理



複数の意見・考えを議論して整理

C-3 協働制作



グループでの分担、協働による作品の制作

C-4 学校の壁を越えた学習



遠隔地や海外の学校等との交流授業

福島県の情報モラル教育充実に向けて



ふくしま情報モラルアドバイザーから

静岡大学 准教授 塩田 真 吾

情報モラル教育という、どうしても「場当たりのなトラブル対応」になりがちです。しかし、体系的・組織的な実施に向けては、情報モラルを含む情報活用能力の育成を意識し、「年間計画に位置付けて」道徳、学級活動、総合的な学習の時間などで実施することに加えて、各教科で端末を使う際に「少しずつ」「日常的に」実施することがポイントになります。

情報とキャリア研究所 所長 加藤 竜 哉

思想的核はつながりです。依存せず、独歩せず、転任後減衰させず、関わりを持つ人々とのつながりの質向上を目指してください。教員の粹、学年、職制、学校、地域を超えた強固なつながりの醸成は、一人一人の得手不得手を解消する術です。自分事としてつながりを意識し、できる範囲で最善を尽くすことが、児童・生徒の成長につながると考えます。

郡山女子大学短期大学部 准教授 山口 猛

本事業によって蓄積された多様な教育実践は、「情報教育」という固い土壌を豊かな大地に耕すための強力な知恵の結晶です。児童・生徒・家庭・学校などの立場や世代を超え、学び合いのサイクルが歩き始めました。継続した情報教育の醸成により、一人一人が当たり前「自分事」としてメディアリテラシーを捉え、育てられるようになることを期待します。

会津大学 教授 中村 章 人

インターネットや情報化社会は、それ以前にはなかった、それまでと異なる特性を持っています。倫理やモラルは従来からある概念ですが、新しい環境に合わせて再認識する必要があります。一人一人が考え方や行動を変えていくには、多様性を認識する、リスクを意識する、言葉を大切にすることが重要です。そして、よい生活リズムこそ次世代のよき心・体・脳を育みます。

医療創生大学心理学部 教授 中尾 剛

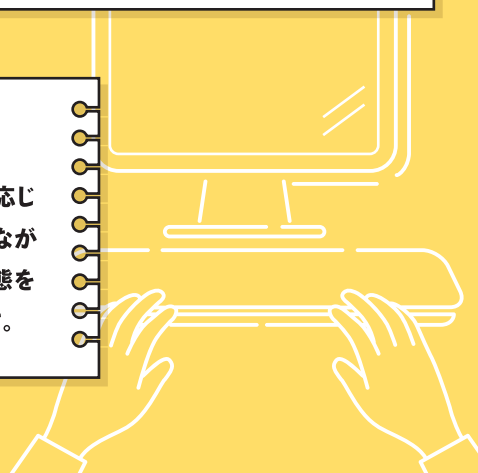
情報を伝達する様々なメディアの特性上(何が伝わり何が伝わらないかなど)、どのメディアを使ってどのように伝えるべきかを選択できるようメディアリテラシーを高める必要があります。その上で、ネットで済ましてよいことと、ネットで済まさない方がよいことを見極める力、情報を受け取った人の気持ちを想像する力が「情報モラル」として必要です。

福島県警察本部少年女性安全対策課
少年対策補佐 戸邊 朗

SNS等の利用に起因して犯罪被害に遭う少年が後を絶たないことから、被害防止対策のためにも情報モラル教育は非常に重要です。「ふくしま情報モラル診断」は、児童生徒が各段階で身に付けておくことが望ましいとされる内容となっております。「ふくしま情報モラル診断」の合言葉は「みんなで！」児童生徒もその保護者も是非みんなで毎年実施してください。

福島県教育センター 指導主事 高橋 徹

各教科の授業や様々な教育活動で1人1台端末を活用することを通して、場面に応じた指導を重ねていくことが、情報モラル教育の充実とメディアリテラシーの育成につながります。校内アンケートや「ふくしま情報モラル診断」等により、児童生徒・保護者の実態を把握し、計画的な指導の位置付けとともに家庭との連携も工夫していくことが大切です。



意識改革 学校体制づくり

定期的な「実技研修」と「情報交換」

伊達市立伊達東小学校

情報教育担当の計画的な実技研修の企画・運営により授業で活用する意義や方法を理解し、意識を高めることができた。

月1回の現職教育全体会の中で、各学年の活用状況を情報交換し、様々な活用アイデアを共有することができた。



互いに聞きやすい雰囲気の中での
研修・情報交換

校務での「日常的な活用」

相馬市立中村第二中学校

教職員での情報共有にGoogleドライブ、アンケートにGoogleフォーム、オンライン職員会議にGoogle Meetを使用するなど、日常的な活用から授業づくりのヒントを得ることができた。

「ICT活用シート」を生かした授業実践

矢吹町立矢吹中学校

全教員が「ICT活用シート」を作成しながら授業実践を行い、実践事例を蓄積してきた。シートの途中まで作成→授業をして残りの部分を作成→振り返りのサイクルにより、全教員が意識を高め、より効果的な実践へとつなげることができた。

「ICT活用シート」を生かした
授業実践のサイクル



教育課程の工夫 保護者との連携

「タブレットタイム」の設定

古殿町立古殿小学校

週2回、朝の学習時間に、低学年はひらがな入力、中・高学年はローマ字入力のタイピング練習時間を設け、児童のタイピングスキルを向上させることができた。

「情報モラル週間」の設定

南会津町立荒海小学校

情報モラル教育について学級活動等で扱ったり講演会を設定したりして、家庭と連携した情報モラル教育を充実させた。



大学の先生による出前授業や講演会

「持ち帰り学習」の段階的な実施と工夫

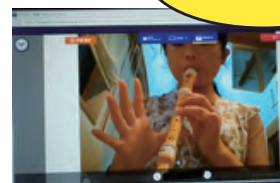
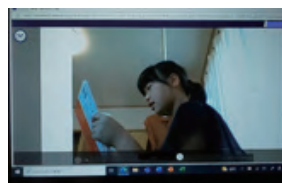
いわき市立夏井小学校

保護者の理解を得ながら、上学年から段階的に持ち帰り学習を行い、課題の与え方や授業へのつなげ方を工夫し、児童の学習の可能性を広げることができた。さらに、動画付きの学年便りを端末で閲覧できるようにする工夫を行い、持ち帰り学習への理解を深めることができた。

【持ち帰り学習の課題の例】

- 家庭での音読やリコーダー演奏等の撮影
- 新聞づくりやプレゼン資料づくりの補充
- 自主学习やドリル学習 など

児童から
提出のあった動画



実践例

持ち帰り学習(家庭学習)と授業をつなげたい!

B-5 家庭学習

社会科「アジア州」

北塩原村立第一中学校 1学年

Before

授業の導入場面で「家にアジア製品があるか」を教師が発問し、生徒が思い出す。(時間の余裕はない。思い出せない生徒は、経験と学習内容が結び付かない。)

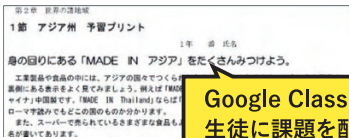


家庭ならではの
持ち帰り学習(家庭学習)課題を
設定する。

After

生徒があらかじめ家でアジア製品を見付け、画像に残すことができる。(時間に余裕がある。画像に残すことなどにより、根拠を基に学習を進めることができる。)

詳しくはこちら /



Google Classroomで
生徒に課題を配信した。



生徒たちがあらかじめ家で「Made in アジア」を探すことができ、実際の生活とアジアとの相互依存作用との関わりを実感することができる。

「授業と家庭学習を
つなげます。」の実現。

福島県教育委員会
ふくしまの「家庭学習スタンダード」より



ほかにも…

国語科

教材文を読み、あらかじめ自分の考えを入力しておく。
毛筆の振り返りを家庭で行う。

理科

家から見える月や星の位置の変化を記録する。
など

実践例

情報共有や対話をしながら学ぶ授業をつくりたい!

C-2 協働での意見整理

理科「運動とエネルギー」

いわき市立内郷第一中学校 3学年

Before

実験結果からグラフを手書きで作成する。ほかの班の実験結果や考察については、実験後に各班から発表があって初めて分かる。



実験結果を表計算ソフトに入力する。
実験結果・考察等を端末内(クラウド)
で共有する。

After

グラフを自動作成し、処理にかかる時間を考察やその後の話し合いの時間のために使うことができる。自席でほかの班の実験結果や考察を参照しながら、自分の班の実験結果や考察をまとめることができる。

詳しくはこちら /



他者参照をしながら、
班の話し合いを進める
姿が見られた。



グラフが表計算ソフトにより自動作成されることを生かし、考察・話し合いに時間を確保することができる。その際、ほかの班の結果や考察を参照することができ、自分の班の考察に取り入れたり全体の話合いでの論点にしたりすることができる。

ほかにも…

算数科

図や式などの考え方について
他者参照から共有化を図り、
関連付けて考える力を育む。

数学科

図画工作科

作品鑑賞の場面で他者参照が
できるようにし、見方・感じ方を
広げるきっかけを作る。
など

美術科



キーワード **系統性、かかわりにつながり、伝えあい・学びあい、異学年交流、家庭教育**






“かかわり”と“つながり”で紡ぐ ～「湖南ならではの」情報モラル教育の実践～

詳しくはこちら



郡山市立湖南小中学校（児童数83人、生徒数39人）

<p>1</p> <p>9年間がつながりあう、 系統性のある情報モラル教育</p> 	<p>2</p> <p>異学年交流で伝えあい、 共に学びあう情報モラル教育</p> 	<p>3</p> <p>学校と家庭・地域がつながり、 児童生徒を支えあう情報モラル教育</p> 
家庭でのルールづくり	異学年で伝えあい、学びあう	家庭教育学級での講演会
「GIGAワークブック」を各授業の中で活用	子ども、保護者を対象にした毎学期の「ふくしま情報モラル診断」の実施	情報モラル教育全体計画を活用した教科、学年、行事における、系統的かつ教科横断的な取組の可視化

キーワード **「文房具」的活用、「じっくり」、「たっぶり」、教科での指導、幼小中・地域連携**








ルールからマナー、そしてモラルへ ～表郷小学校「ならではの」「だからこそ」の情報モラルを考える～

詳しくはこちら



白河市立表郷小学校（児童数295人）

<p>情報モラル教育推進にあたって</p> <p>1年次 実態把握を生かした授業構想と指導カリキュラムの作成 (タブレット導入時の困り感・家庭での実態からカリキュラムをつくる)</p> <p>2年次 情報モラルを育む指導の日常化と家庭との連携 (各教科タブレット活用場面での「小刻みな情報モラル指導」と家庭啓蒙・カリキュラム改善)</p> <p>3年次 子ども・家庭・地域・教員の思いを生かした『表郷小情報モラル』作成 (地域全体で情報モラル教育を考える機会づくり・共通実践)</p>	<p>「文房具」的活用だからこそ、 学びにかえる</p> <p>情報モラルを教える場面を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ○道徳科・特別活動等の「1単位時間」 ・系統性を考えた配当だからこそ、計画的な指導ができる ○タブレット活用場面は「各教科で何度もある」 ・子どもの育ち（発達過程）・把握している実態 ・活用しているからこそ「迷い（判断）」 ○普段から接しているからこそ「価値付けして励ませる」 ・子どもの頑張りをはめ、さらなる取組みに導く ・課題を一緒に見だし、改善に導く <p>何度もある「各教科のタブレット活用場面」をチャンスと捉え、担任・教科担当が「たっぶり」指導（日常化）</p> <p>道徳科や学活だけでなく、各教科のタブレット活用場面を情報モラルの指導チャンスと捉える</p>  <p>各教科で「たっぶり」指導</p> <p>国語科の話合い活動</p>  <p>社会科の発表資料作成</p>	<p>幼小中・地域連携</p> <p>保護者対象の情報モラル教育講演会実施</p> <p>小学校だけでなく、幼小中の連携、保護者との連携、地域連携の機会をもつ</p> <p>家庭での情報モラル指導のポイントとは</p>  <p>地域連携・PTAとの連携</p> <p>「自分だったら…」を考える</p>  <p>幼小中連携授業参観</p>																		
<p>1 情報モラル教育の3つのポイント</p> <table border="1"> <tr> <th>内容</th> <th>方法</th> <th>時間</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>2 「じっくり」指導につながるキーワード</p> <table border="1"> <tr> <th>実践把握</th> <th>ズレ</th> <th>特質</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>3 「たっぶり」指導への見通し</p> <table border="1"> <tr> <th>教育課程</th> <th>時間</th> <th>組織</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	内容	方法	時間				実践把握	ズレ	特質				教育課程	時間	組織					
内容	方法	時間																		
実践把握	ズレ	特質																		
教育課程	時間	組織																		
<p>第1回校内授業研究会「じっくり指導」授業の実際</p> <p>4年生 道徳科 主題名／度がすぎないために（節度・節制） 教材名／「心の温度計」（光文書院4年）</p> <p>道徳科で「じっくり」指導</p> 																				

研究校の取組

キーワード 全校合同、小中連携、タイムマネジメント、保護者の巻き込み、キャリア教育



他学年・小学校・保護者との連携を図った情報モラル教育

～「SNSトラブルの回避」と「情報端末の長時間利用の改善」に向けた多様なアプローチ～

詳しくはこちら /



新地町立尚英中学校 (生徒数211人)

全校合同授業 (オンライン)



一人一人の感じ方は、こんなに違うのか!

カード分類比較法で
SNSトラブルの原因の模索

小中連携授業



24時間の生活記録を比較

隙間時間
15分あったら
何をする?

勉強

散歩

料理

小学生と一緒に、
自分の生活をタイムマネジメント

保護者を巻き込んだ授業



我が子はこんな考えを持っているのか...

個々の意見や考えをリアルタイムで表示

授業参観で
保護者参加型の授業を実施

キーワード 授業で活用、そのまま使えるGIGAワークブック



「何がリスクなの」情報モラル、情報リテラシーの育成

情報モラル、情報リテラシーをセットで学習し、リスク回避への意識を高める。

詳しくはこちら /



南会津町立伊南小学校 (児童数35人)

第3・4学年学級活動(2)

「自分と相手の感じ方のちがい」



「同じ言葉でも
人によって感じ方が違うよ。」
「文字だけで伝えると、
誤解しちゃうよ。」

「まじめだね。」
「おもしろいね。」の一言でも
伝わり方に違いがあるね。
自分と全く同じ人っていないんだな。

第6学年社会科

「江戸の政治や文化を調べよう」



だ …… 誰が発信してるの?
い …… いつ発信したの?
ふく …… 複数の情報で確かめた?

「信頼性や信憑性は大丈夫かな?」
「教科書に載ってないこともあったけど本当かな?」



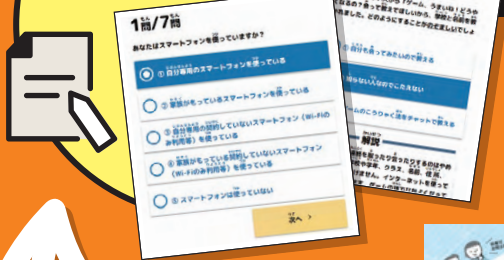
全研究校による情報モラル教育指導事例 Webサイト

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/70056a/jyouhoumoraru.html>



「ふくしま情報モラル診断」の活用！

アンケート・診断問題

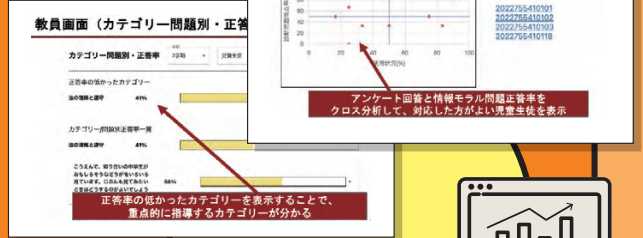


使用場面や授業等での学びへ



一般用(家庭でも繰り返し使用可能)

実態把握・分析



ふくしま情報モラル診断(一般用)Webサイト
<https://fukushima-infomoral.jp/general>



ふくしま「未来の教室」授業充実事業と次世代のためのメディアリテラシー育成事業が両輪となって、ふくしまの情報活用能力(情報モラルを含む。)の育成を支えてきました。

ふくしま「未来の教室」授業充実事業実践協力校

- 伊達市立伊達東小学校
- 伊達市立桃陵中学校
- 古殿町立古殿小学校
- 古殿町立古殿中学校
- 矢吹町立善郷小学校
- 矢吹町立矢吹中学校
- 柳津町立柳津小学校
- 北塩原村立第一中学校
- 南会津町立荒海小学校
- 只見町立只見中学校
- 相馬市立中村第二小学校
- 相馬市立中村第二中学校
- いわき市立夏井小学校
- いわき市立内郷第一中学校

次世代のためのメディアリテラシー育成事業情報モラル教育研究校

- 国見町立国見小学校
- 国見町立県北中学校
- 福島市立平田小学校
- 福島市立信夫中学校
- 大玉村立大山小学校
- 大玉村立玉井小学校
- 大玉村立大玉中学校
- 郡山市立湖南小中学校(前期課程・後期課程)
- 白河市立表郷小学校
- 白河市立表郷中学校
- 猪苗代町立猪苗代小学校
- 喜多方市立第一中学校
- 会津若松市立河東学園(前期課程・後期課程)
- 会津若松市立湊小学校
- 会津若松市立湊中学校
- 下郷町立江川小学校
- 南会津町立田島中学校
- 只見町立只見小学校
- 檜枝岐村立檜枝岐中学校
- 南会津町立伊南小学校
- 南会津町立荒海中学校
- 新地町立福田小学校
- 新地町立尚英中学校
- いわき市立赤井小学校
- いわき市立内郷第三中学校
- いわき市立藤原小学校
- いわき市立豊間小学校
- いわき市立江名中学校